



北九州ジオパーク構想

Kitakyushu Geopark Initiative



ジオパークとは

大地の成り立ちや、大地と人の関係がよくわかる場所（ジオサイト）を含む地域のことです。日本には6つの世界ジオパークと27の日本ジオパークがあります（2013年末）。ユネスコの協力のもとでジオサイトの保全やジオサイトを活用した教育や産業振興など、地域の持続可能な社会経済の発展をめざした活動が行われます。



北九州ジオパーク推進連絡会

〒805-0071 北九州市八幡東区東田 2-4-1 北九州市立いのちのたび博物館内

TEL : 093-681-1011 FAX : 093-661-7503

1308092D

北九州市は、ジオパーク認定をめざします。

北九州市は、約3億年の時を刻んだ大地の上にあります。市内各所で古生代、中生代、新生代の地層や岩石が見られるほか、それぞれの時代に生きていた生物の化石が見つかります。また、石炭をはじめとする大地の恵みは北九州市の産業や文化の発展を支えてきました。今こそ、北九州市の豊かな大地と歴史を見つめ直し、持続可能な社会・文化・経済の発展をめざすときです。

約3億年前
(古生代)



① 呼野層群

北九州市で最も古い地層。サンゴ礁からできた石灰岩を含み、当時は温かい海だったことを物語っています。

約9000万年前
(中生代)



② 花崗閃緑岩

地下のマグマが冷え固まってできた岩石。小倉南区の間島には江戸時代にこの石を採った石切場跡があります。

約3000万年前
(新生代)



③ 大辻層群

石炭を豊富に含む地層。石炭は当時このあたりに広がっていた森の樹木がもとになってできたものです。

景観



④ 平尾台

日本三大カルストのひとつ。石灰岩が雨水などで溶かされてできた地形で、多くの鍾乳洞もあります。

文化



⑤ 小倉城

細川氏や小笠原氏が治めた城下町、小倉のシンボル。石垣には間島から切り出された石などが使われています。

産業



⑥ 東田第一高炉

1901年に操業を始めた、官営八幡製鉄所の最初の溶鉱炉。筑豊や北九州の石炭が燃料として使われました。



日本ジオパーク認定に向けて

ジオパークとして活動するためには、まず日本ジオパークとして認定される必要があります。認定に向けて、ジオサイト候補地の調査と整備、見学会や講演会の開催、参加団体の募集などが始まっています。北九州の大地の歴史を体感し、一緒に地域の発展をめざしましょう！

北九州ジオパーク構想への参加をお待ちしています。

お問い合わせは北九州ジオパーク推進連絡会まで